

認定NPO法人 JUON NETWORK

ANNUAL REPORT 2023

2023.4-2024.3



JUON NETWORKの創立



左 / 創立総会（1998年徳島・池田町 / 現・三好市） 中央 / 間伐材製ミニハウス 右 / 佐渡の鳥越文庫

● 1998年4月に設立

JUON NETWORK は、大学生協と「人・自然・環境」に心を馳せる者たちによるネットワークから生まれました。

● 阪神淡路大震災

1995年に発生した阪神淡路大震災の際に、大学生協では兵庫に約240室の「仮設学生寮」を建設し、2年間運営しました。その学生寮の一部は、「間伐材」を使用したミニハウスでした。これは徳島県三好郡（当時）の行政や林業関係者から提供いただいたものであり、芦屋のテニスコートの上にカラフルな58棟の「村」が出現しました。

● 木と森への感謝

このミニハウス建設を契機に、大学生協と三好の方たちとの交流が始まり、それを通じて、木材が売れないために、森林の手入れが進まず、森林が荒廃の危機にあることを知ったのです。

同時に、森林には水源の涵養・災害防止・二酸化炭素の吸収など私たちの生活に密着した多面的機能があることも知りました。

● ボランティア元年

阪神淡路大震災の際には、全国から学生をはじめとして多数のボランティアが駆けつけました。後に「ボランティア元年」と位置づけられる由縁です。この機運は一時的なものに留まらず、1998年施行の「特定非営利活動促進法」（NPO法）につながりました。

JUON NETWORKも、大学生協関係者と廃校を利用した施設運営推進者（埼玉神泉村・新潟佐渡・富山利賀村）、そして震災でつながった神戸・徳島三好の、志を同じくする者が、「協同」「共助」の社会を目指すことも目的に設立しました。

JUON NETWORKの名称の由来

最後の棟梁と称された宮大工の故西岡常一さんの著書にある「今になって、緑や、自然やゆうても……」ところが、このことにお釈迦様は気がついておられた。『樹恩』ということをお説いておられるんですよ、ずっと大昔に。それは木がなければ人間は滅びてしまう」という文章から、『樹恩』（じゅおん）の語をいただき、また、都市と農山漁村の人々をネットワークで結んでいくとの意志を込めて、「JUON NETWORK」（樹恩ネットワーク）と命名しました。

SDGsとJUON NETWORK

JUON NETWORKの活動は、特に目標15「陸の豊かさを守ろう」に直結していますが、その他にも、森林の楽校・田畑の楽校・樹恩割り箸などの活動が、目標8「働きがいも経済成長も」、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標12「つくる責任つかう責任」、の目標にも貢献します。



JUON NETWORKがめざす未来と社会

ミッション (JUON NETWORKが果たすべき社会的使命)

都市と農山漁村が支え合うネットワークを
森林などをめぐる体験・交流・応援の活動によってひろげ、
持続可能な社会を創造する。

ビジョン (JUON NETWORKがめざす社会)

- 1 人が、自然（森林・田畑・河川・海）を持続的に活用できる社会。
- 2 農山漁村が、都市とともに持続的に存在できる社会。
- 3 若者が、人と自然、都市と農山漁村をつなぐ担い手として持続的に活躍できる社会。

バリュー (JUON NETWORKが大切にすること)

- 1 樹木などの恩恵に感謝し、自然とのつながりを大切にする。
- 2 農山漁村と都市の顔の見えるつながりを大切にする。
- 3 若者の学びと成長を支え、世代間のつながりを大切にする。
- 4 NPO、協同組合、企業、学校、地域コミュニティ、行政などのつながりを大切にする。

今回の ANNUAL REPORT では、JUON NETWORK の日々の活動が順調に回復している状況をお伝えすることができました。その背景には、昨年5月8日をもって新型コロナがインフルエンザと同様の5類に移行したことがあります。行動制限の求められる状態が解除されたわけです。おかげさまで森林の楽校や田畑の楽校などが、ほぼ計画どおりに実施されることになりました。また、大学の生協食堂が復活したことで、割り箸の利用も戻りつつあります。このように多くの取り組みが早期に回復した点については、いささか手前味噌になりますが、JUON の組織運営上の特色による面があります。それは一昨年の REPORT でも触れましたが、収入に占める寄付と会費の割合が高いことです。かりに事業収益中心で運営されていたならば、活動の継続は困難となり、組織自体の存続が危ぶまれる状況すら回避できなかつたと思われまます。

寄付については、企業や団体や生協などからも多くの支援を頂戴しております。有難いことです。特色のひとつとして、JUON の理念への共感にとどまらず、JUON の活動への積極的な参加や新たな活動の提案を伴ったサポートが多くを占めている点があります。収支について助けていただくと同時に、JUON とともに歩む仲間だと申し上げることをお許し願いたいと思います。今回の REPORT も

企業などの仲間と結びついた活動を紹介しております。なかでも生協の森づくりをめぐる取り組みについては、特集ページをお読みいただければ幸いです。

ともに歩む仲間という意味では、森林の楽校や田畑の楽校を地元で支えてくださる関係者の皆さんの重要性は言うまでもありません。森林や田畑の現場に接する楽校は、生き物を育てる林業や農業の面白さや難しさを学ぶ場であるとともに、農山村のコミュニティの役割を実感する機会でもあります。そもそも森林には地域社会の共有資源として保全されている面があり、農業生産も水路や農道が典型ですが、地域社会の共同行動のもとで継承されてきました。農山村のコミュニティは、都会では失われてしまった文化的資産だと言ってもよいでしょう。であればなおのこと、都市部の人々にとって、とりわけ若者にとって、森林の楽校や田畑の楽校は貴重な学びのチャンスにほかなりません。これからも JUON の活動へのご参加とご支援をご期待申し上げる次第です。



会長 生源寺真一
(公益財団法人日本農業研究所
理事・研究員)



森づくり体験プログラム もりがっこう 森林の楽校

JUON NETWORK では、日本の森林や林業、あるいは山村の現状を知らせ、森林を守ることの大切さを知ってもらうために、「森林の楽校」(もりのがっこう)を全国各地で開催しています。2023年度は、全国17ヶ所で、32回開催し、学生や若者を中心に、地元の方も含み697名(昨年:29回574名)が参加しました。

森林の楽校では、間伐・枝打ち・下草刈りなどの体験をし、併せて農山村の地元の方たちと交流をし、その現状を実感します。

「森林の楽校」の開催(2023年度)

参加回数・参加者数

①白神山地 森林の楽校	秋田県藤里町	中止
②会津高原 森林の楽校	福島県南会津町	1回33名
③水源の森 自然ふれあい楽習	群馬県みなかみ町	1回38名
④神の泉 森林の楽校	埼玉県神川町	3回69名
⑤かずさの里 森林の楽校	千葉県大多喜町/千葉県睦沢町	2回65名/2回70名
⑥多摩の奥 森林の楽校	東京都奥多摩町	1回24名
⑦トキの島 森林の楽校	新潟県佐渡市	2回34名
⑧そばの里 森林の楽校	富山県南砺市	2回51名
⑨おしっさまの里 森林の楽校	福井県越前市	4回69名
⑩安曇野 森林の楽校	長野県安曇野市	2回33名
⑪風の谷 森林の楽校	岐阜県揖斐川町	5回84名
⑫キノコの森 森林の楽校	京都府亀岡市	1回17名
⑬清流の森 森林の楽校	兵庫県宍粟市	1回14名
⑭四国のへそ 森林の楽校	徳島県三好市	1回11名
⑮さぬきの森 森林の楽校	香川県さぬき市	1回58名
⑯四万十川 森林の楽校	高知県四万十市	1回5名
⑰鳥の栖 森林の楽校	佐賀県鳥栖市	1回17名
⑱つばきの里 森林の楽校	長崎県長崎市	1回5名
☆雲の上 森林の楽校	オンラインボランティアプログラム	3回59名

合計
32回697名

参加者より



一日目の林業体験では間伐作業を行い、指導者の方や同じ班になった方々から懇切丁寧にやり方を教わり、いざ伐倒。二日目の自然観察会では谷川岳周辺の生態系を森が支えていること等多岐に渡るお話を伺いました。2日間通して、自然の美しさかけがえのない大切さ、またその自然を守るための一環としての林業の奥深さを実感しました。

(水源の森 自然ふれあい楽習)



いよいよ、竹藪へ!と思っていたら、準備運動。現役小学生の息子と並んでラジオ体操をする日がくるとは(笑)午前中は、ひたすら放置された竹の運搬作業。そして、午後はついに竹を伐採できることに!ノコギリ片手に竹藪を上っていく息子。一人の人として仕事を任せてもらえ、全うしようと頑張る息子が、ちょっと誇らしかったです。

(かずさの里 森林の楽校(睦沢))



念願かない福井県越前市まで行ってきました。何より森の中に身を置くと、心も体もスッキリします。メインは作業道がスムーズに使えるように、道端の枝や竹を払う作業。お宿の山ふところ工房は、地のものを生かした食事が一押し。想像を超える夕食のお膳を目の前に「今日は特別なご馳走バージョンですか?」とつぶやいてしまった。

(おしっさまの里 森林の楽校)

体験からリーダーへ 森づくりを担う人材の育成

森林保全を実際に形あるものにするためには、一定のフィールドにおける継続的な取り組みと、それに自主的に関わり、主体的に森づくりを担う人材の育成が不可欠です。

里山・森林ボランティア入門講座 (旧森林ボランティア青年リーダー養成講座)

「森林の楽校」などで得た森林保全や森林作業への関心をいっそう育み、作業スキルの向上を図るために、東京、関西、四国にて、それぞれ年1回「里山・森林ボランティア入門講座」を実施しています。

東京



第25期となり、10月から翌年1月にかけて5日間で実施し、15名の参加がありました。

関西(京都・兵庫)



第17期となり、9月から翌年1月にかけて5日間で実施し、10名の参加がありました。

四国(徳島・香川)



第7期となり、9月から翌年1月にかけて6日間で実施し、10名の参加がありました。

資格検定制度 エコサバー

JUON NETWORKでは、環境や自然体験活動を主な内容とした資格検定試験である「エコサバー」を実施しています。サポーター、リーダー、シニアリーダー、コーディネーターの4つの段階があり、23年度は、リーダー養成講座を実施し、3名の参加がありました。

CONE(自然体験活動推進協議会)に参加し、里山・森林ボランティア入門講座とも連動させています。



定期的な森づくりに取り組む ヤングジュオン

「里山・森林ボランティア入門講座」の卒業生を中心に「東京ヤングジュオン」、「関西ヤングジュオン」、「四国ヤングジュオン」が、継続して森づくりに取り組んでいます。

東京ヤングジュオン

東京都奥多摩町の「鳩ノ巣フィールド」を拠点に、月1回の定例活動を続けており、「多摩の奥 森林の楽校」の運営も行っています。また、他団体と共に「多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド」へも参加しています。なお、「おくたま海沢ふれあい農園」とタイアップした活動も行っています。23年度も各々開催しました。

関西ヤングジュオン

「清流の森 森林の楽校」と「キノコの森 森林の楽校」の運営を行っています。また、月1回の「青春自然塾」や「中坪・里山整備」などに参加しています。有志活動として、中坪の「高田ハウス」を活用した地域活動を9回行いました。



四国ヤングジュオン

「さぬきの森 森林の楽校」の運営を行っています。また、香川県丸亀市・本島での森林整備活動や地域おこしイベントのお手伝いをしました。

企業や生協の森づくり活動への協力

JUON NETWORK が「森林の楽校」やヤングジュオンの活動などで積み上げてきたノウハウを、企業や生協の森づくり、所属する職員へのボランティア活動の場の提供などに活かしています。

企業の森づくり

NECグループ労働組合連合会	日本各地での森づくり活動の受け入れをしています。23年度は千葉県大多喜町で竹林整備を4月と11月に2回実施しました。
太陽生命保険株式会社	栃木県那須塩原市にある「太陽生命の森林」にて、森づくり活動の協力や関連する企画のお手伝いをしました。23年度は3回実施しました。
株式会社チョイスホテルズジャパン (コンフォートホテル)	2017年度より支援をいただいております、社員や利用客の森づくり活動などに協力しています。23年度は、奥多摩町での活動を実施しました。
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	21年度より支援をいただいております、社員の方に森づくり活動に参加いただいております。
公益財団法人 三菱UFJ環境財団	1999年から、群馬県みなかみ町で、「森林の楽校」としては2番目に古い「水源の森 自然ふれあい楽習」を共催しています。
サノフィ株式会社	22年度より、社員の方に森づくり活動に参加いただいております。
住友商事株式会社	23年度より、社員の方に森づくり活動に参加いただいております。

生協の森づくり

コープみらい 秩父の森	コープみらいが所有する「秩父の森」には2007年度より協力しています。23年度は、コープみらいの組合員が参加するイベントの実施(計7回)と、組合員有志による「森を守る応援団」(計10回)、「ボランティア体験講座」(計4回)のサポートをしました。
パルシステム東京 いなぎめぐみの里山	パルシステム東京が所有する「いなぎめぐみの里山」では、竹林の保全のため竹の伐採や、切った竹を使っての工作企画、そして年末恒例となっている「ミニ門松づくり」などの組合員参加企画のサポートをしました。23年度は、コロナ対策をしつつ3回行いました。また、「森づくり計画策定タスク」にも参加しました。
パルシステム埼玉「森林体験バスツアー」	8月19日に埼玉県神川町で、組合員参加企画として実施され、JUONはそのサポートを行いました。
生協の森づくり・体験企画 担当者交流会	森づくりや組合員企画として森林体験などを行っている全国の地域生協の担当者を対象に、3月26日に開催しました。参加者は47名(13生協2生協連合会、林野庁、国土緑化推進機構、JUON)となりました。※詳しくは10ページをご覧ください。



秩父の森



いなぎめぐみの里山



森林体験バスツアー

多摩の森・大自然塾「鳩ノ巣フィールド」

JUON NETWORK が事務局を担当し、コープみらいの協力の下、毎月第3日曜日に開催しています。23年度は、毎月開催することができ、のべ161名(22年度156名)の参加を得ました。

間伐と国産材利用の大切さを伝える 樹恩割り箸

今、日本の森林は資源としての木が育ち、収穫期を迎えています。この資源を活用し、日本の至る所で国産材を使用することが必要になっています。それにより、林業が栄え、地方や山村に産業が生まれ、地方の創生にもつながります。

森林の保全には、定期的な間伐などの手入れが必要であり、間伐された木が販売され林業として成り立つことも不可欠です。間伐材・国産材の「樹恩割り箸」は、それらのことを、学生をはじめ多くの方たちに伝えるために生まれました。23年度の利用は、昨年度を上回り、1,047万膳（昨年1,020万膳）となりました。

■全国の大学生協の食堂で利用されています

樹恩割り箸は、1998年開始時は116万膳の生産でしたが、その後利用が順調に増え、2016年度には1400万膳となりました。その多くは大学生協が占めています。

大学生協では、食堂での利用のほか、数多く販売される弁当にも付けられ、これからの次代を担う多くの学生たちに間伐の必要性と国産材の利用の大切さを伝えています。

■飲食店・宿泊施設などでも樹恩割り箸を利用しています

樹恩割り箸は、全国の飲食店や宿泊施設、お弁当屋さん、スーパーなどでも利用されており、約100以上の店・施設で利用されています。また、徳島県三好市の小・中学校では、森林環境贈与税を活用して、樹恩割り箸が提供されています。



<徳島県三好市では全ての小・中学校の給食で>

樹恩割り箸は、すべて福祉施設で製造されています

障害者にとって、仕事を持って働くことが生きがいにつながります。樹恩割り箸は、全国4ヶ所の知的障害を持つ方が利用する福祉施設で生産されています。箸の生産に携わることで、給与のアップや日々の生活の中のモチベーションにつながっています。

■障害者が森や環境を守る手伝いができる

「障害者は何かをしようとする時に支援が必要な場合があるが、この事業では障害者が森や環境を守る手伝いができる。」これが、樹恩割り箸を生産する障害者や職員の拠り所です。従事する障害者は、日々自分の仕事に誇りを持ってその生産に取り組んでいます。

林業関係者の「森林を守りたい」「地域を活性化したい」という気持ちと、福祉関係者の「福祉への関心を深めてもらいたい」「障害者に誇りをもって仕事をしてもらいたい」、この思いが林業と福祉の連携という、先進的な取り組みとなりました。

樹恩割り箸を生産している福祉施設

あたご共同作業所
(福島県南会津町)

江南愛の家
(埼玉県熊谷市)

山の子の家
(東京都日の出町)

セルフ箸蔵
(徳島県三好市)



樹恩割り箸 普及の経緯

製造開始以来、順調に増加 コロナ禍からも立ち直る

前述したように、樹恩割り箸は、26年前の1998年に製造を開始しました。その年の納品数は26大学生協を中心に116万膳でした。その後は順調に推移し、5年後の2003年度には66大学生協・757万膳、10年後の2008年度には65大学生協・1094万膳、15年後の2013年度には75大学生協1125万膳、そして2016年度にピークとなり

81大学生協・1400万膳となりました。

その後の3年間では、減少傾向が続き2019年度は1193万膳に留まり、そして、その翌年の2020年度はコロナ禍により大きな影響を受け、922万膳まで落ち込みました。特に大学生協への納品は、前年の940万膳より392万膳減り548万膳(▲41.7%)となりました。

しかし、この窮状を鑑み、全国大学生協連のイニシアチブにより、改めて樹恩割り箸を使用することを各大学生協に強く呼び掛ける取り組みが2021年に行

われ、大学生協への納品は、2021年度には200万膳近く改善し731万膳となりました。

2022年度も大学生協納品は順調に回復しおよそ100万膳増やし、23年度は総数では1047万膳となり、2019年度比では90%ほどに回復しています。大学生協食堂の売上がなお80%の回復にとどまっている現状、また樹恩割り箸の大学生協納品価格を23年4月に値上げした影響も考慮すると、コロナ禍からはほぼ立ち直ったと言えます。

寝食を共にして農業を応援 **はたけ がっこう 田畑の楽校**

農村において高齢化や過疎化が進む中で、繁忙期などで一時的に農作業を手伝ってもらえる人手は大変助かり、精神的にも励みとなります。JUON NETWORK では、泊まりがけでの援農活動である「田畑の楽校」（はたけのがっこう）を全国4ヶ所で進めています。

ぶどうの丘 田畑の楽校

山梨県山梨市牧丘地区

ぶどうの産地である山梨の風土に接しながら、澤登農園でのボランティア活動を開始してから20年近くとなりました。23年度は、田畑の楽校を番外編、収穫祭も含め1泊2日で8回実施（参加者91名）。また、有志の自主的な活動が年間で36日行われました。ボランティアをきっかけに山梨へと移住して、これまでに4世帯がぶどう農家となっています。



北信りんごの里 田畑の楽校

長野県長野市篠ノ井地区

22年度から新たに旧篠ノ井市の「庄田果樹園」をフィールドに、1泊2日（宿泊は「ラポランドくろひめ」）で、花摘み作業→摘果作業→葉摘み作業→収穫作業を適宜行いました。昨年よりも1回増やし、年5回を実施しました。のべ51名が参加しました。



南伊勢のみかん 田畑の楽校

三重県南伊勢町

三重県の南部、伊勢志摩国立公園の南玄関に位置し奥志摩として親しまれる南伊勢町は、伊勢神宮の自然林から続く豊かな森、山から海まで多彩な自然と、農村と漁村文化が混在する独自の文化が特色です。この南伊勢で、「南伊勢のみかん 田畑の楽校」が開催されています。23年度は、9月24日・11月18日・11月19日・12月10日に開催され、のべ21名の参加がありました。2月には番外編も開催されました。



熊野の棚田 田畑の楽校

和歌山県那智浦町色川地区

今や人口の約4割が新規定住者という全国でもめずらしい地域です。「農業」「田舎暮らし」という言葉がちょっと気になるという方に好評です。田植え、草取り、稲刈り、わらまき、畦削ぎなど棚田でのお米づくり体験ができる1泊2日の楽校です。23年度は、コロナ後初めて開催され、年2回開催されました。



廃校を活用したセミナーハウスなど

JUON NETWORK の設立にあたっては、廃校を活用した施設の設定や運営をしていた方たちの大きな尽力がありました。その施設のある地域は、現在でも森林の楽校を開催する拠点となっているところが少なくありません。

- ①「白神ぶなっこ教室」秋田県藤里町
- ②「鳥越文庫」新潟県佐渡市
- ③「Starforest 利賀」富山県南砺市
- ④「ラーニングアーバー横蔵」岐阜県揖斐川町
- ⑤「四万十楽舎」高知県四万十市



各「地域ブロック」の活動

JUON NETWORKの全国ネットワークは、6つに区別された「地域ブロック」によって構成されています。各ブロックでは「世話人会」を中心に、森林の楽校やブロック独自の活動、会員相互の交流などを進めています。

北海道東北地域ブロック

年1回行われる「会津高原 森林の楽校」（福島）を中心に活動しており、地元の方との交流や、樹恩割り箸を製造している「あたご共同作業所」の見学も行っています。23年度も「芋煮会」を行いました。

関東甲信越地域ブロック

23年度は、千葉県船橋市にある「飯島農園」で、野菜の収穫体験や竹林整備を行いました（計12回、のべ197名の参加）。また「安曇野ツアー」も5回開催し、のべ27名の参加がありました。

東海北陸地域ブロック

「風の谷 森林の楽校」（岐阜）と「そばの里 森林の楽校」（富山）を中心に活動しています。また、地域の様々な企画に協力しています。

関西中国地域ブロック

「キノコの森 森林の楽校」（京都）と「清流の森 森林の楽校」（兵庫）を開催しました（参加者計31名）。23年度の企画は、中坪地区（兵庫・宍粟市）での活動を中心に、「町並みと民家を訪ねる会」や「柚子狩り」も実施しました。

四国地域ブロック

徳島では、「森林の楽校」と「樹恩割り箸」の発祥の地として、現在もこの2つを中心に活動しています。香川では、「香川会」として独自の活動を進めており、23年度も「さぬきの森 森林の楽校」と「里山・森林ボランティア入門講座」を行った他、本島でも活動を行いました。

九州地域ブロック

毎年開催していた「つばきの里 森林の楽校」（佐賀・長崎）を「鳥の栖 森林の楽校」（佐賀）と「つばきの里 森林の楽校」（長崎）に分けて開催しました。引き続き大学生協の学生や職員と地元の方の協力が進んでいます。23年度は、2つの森林の楽校へ合わせて22名の参加がありました。



芋煮会



飯島農園



中坪・サツマイモ苗植え

地域の拠点づくりを目指す 高田ハウス

長年「清流の森 森林の楽校」を開催してきた兵庫県宍粟市一宮町・中坪地区において、空家である古民家をお借りし、活動の拠点としています。

活動の際の宿泊場所として、また、地域住民との恒常的な交流の場として活用して、8年が過ぎました。



生協の森づくりとJUON NETWORK

生協では、森林を保有し「森づくり」や組合員企画としての活動に取り組んでいるところが少なくありません。JUON NETWORK では、2年続けて「生協の森づくり・体験企画 担当者交流会」を開催しました。

生協の森づくり

宅配でよく知られる「コープ」は、「地域生協」と言われ、およそ130生協となっています。組合員数は約3000万人と広がっており、ある県ではその世帯数は過半数を超え、暮らしや意識に与える影響力は少なくありません。

この地域生協の中で、実際に森林を保有し森づくりを進めている生協や、森をステージとした活動を進めたり、あるいは組合員企画として参加者を募り森林での体験や木工を進めたりしている生協が目立っています。ウェブサイトからピックアップしただけでも30生協を超えます。

●森を所有している生協

実際に森林を保有している生協は10～15生協ほどと思われます。なかには10を超える森づくりを進めている生協もありますが、大抵は1～2の森林を保有しています。



保有している森林では、森の整備のための間伐や草刈り、あるいは枝打ちといった森林保全の体験活動や、植樹を進める活動、あるいは森の中のいろいろな生き物とその生態を知る活動などが進められています。

●組合員企画としての森林体験や助成活動も

一方、森を保有せずに活動している生協もあります。そういった生協では、行政と協定を結び、地元の森林組合や森づくりを進めるNPOと連携し、特



定の森林を借りている生協や、その都度森林の場所を変えて、森づくりや体験企画を独自で推進している生協もあります。

また、「森づくり基金」を設置している生協も目立ち、それらの生協ではその基金を地元で活動する森づくりの団体に助成している生協もあります。

●森林の維持管理に課題も

しかし、広大な森を荒廃させることなく、継続して維持管理していくことに関して、苦勞をしている生協も少なくないようです。実際に、ウェブサイトでは「森づくりとその活動は〇〇年に終了しました」との掲示があったり、活動報告が数年前までで途絶えていたりといった生協も目立ちます。

「生協の森づくり・体験企画 担当者交流会」の開催

そういった生協の森づくりの課題の軽減を目的に、JUON NETWORK では、昨年（23年）と今年の3月に、2回続けて「生協の森づくり・体験企画 担当者交流会」を開催しました。

交流会はオンラインで開催し、林野庁や国土緑化推進機構の後援と日本生協連の協力を得て行われ、生協の森づくりの現状や課題が共有されました。分散会や分科会では互いの現状の報告がされ、活発な意見交換が行われています。

第1回である昨年の交流会には、15生協2連合会（パルシステム連合会・日本生協連）・林野庁・JUON で、49名の参加がありました。

第2回である今年の交流会には、13生協2連合会（栃木県連合会・日本生協連）・林野庁・国土緑化推進機構・JUON で、47名の参加がありました。

生協名	参加者数		7 栃木県生協連	1	15 コープこうべ	2	4
	23年	24年					
1 コープさっぽろ	4	4	8 コープながの	2	16 コープえひめ	1	
2 コープあおもり	1		9 パルシステム埼玉	4	17 エフコープ	2	3
3 いわて生協	1		10 コープみらい	6	18 パルシステム連合会	2	
4 生協共立社	3	1	11 パルシステム東京	3	19 日本生協連	2	4
5 みやぎ生協	3	3	12 東都生協	1	合計	41	38
6 いばらきコープ	3	2	13 コープしが	2			
			14 大阪よどがわ市民生協	1			

JUON NETWORKの概要と運営

ゼロから出発した JUON NETWORK は、24 年 4 月 27 日に設立から 26 年となり、多くのボランティアや団体会員の皆さまのご尽力によって、安定した組織運営と財政を実現しています。

■JUON NETWORKの概要

名称	認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK
代表	会長 生源寺真一
設立	1998 年 4 月 27 日 徳島県池田町（現・三好市）にて設立総会 1999 年 11 月 25 日 特定非営利活動法人格を取得 2011 年 6 月 1 日 認定特定非営利活動法人に認定
機関	最高議決機関＝総会 その他＝理事会（年 3～4 回）・常任理事会（年 4 回）
会員	個人会員 450 名・学生会員 31 名・家族会員 27 名・団体会員 93 団体（2023 年度末現在）
会計	経常収益 3,213 万円－経常費用 2,787 万円＝経常増減額 426 万円（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

■役員（2024年度）

会長	生源寺真一（公益財団法人日本農業研究所 理事・研究員）
副会長	小林 正美（有限会社樹庵 代表取締役） 中森 一郎（全国大学生生活協同組合連合会 専務理事）
常任理事	大本 隆史（日本コープ共済生活協同組合連合会 職員） 澤登 浩二（澤登農園） 瀬川 大輔（全国大学生生活協同組合連合会 執行役員・学生委員）
理事	浅沼 由紀（関西中国地域ブロック 世話人） 大井 康成（生活協同組合コープみらい 執行役員・東京都本部長） 大野 泰広（大学生協事業連合九州地区 常務理事） 鹿住 貴之（認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK 事務局長） 佐藤 敬一（東京農工大学 非常勤講師） 重元 勝（コーディネイト研究所 代表） 田中 康治（宮城教育大学生生活協同組合 専務理事） 玉中 健太（株式会社山弘 社員） 寺尾 善喜（日本コープ共済生活協同組合連合会 職員） 中前 明（社会福祉法人池田博愛会セルブ箆蔵 施設長） 野尻 郁智（大学生協事業連合 常務理事） 藤田 和則（富山大学生生活協同組合 専務理事スタッフ） 渡部 孝二（特定非営利活動法人あたご 副理事長）
監事	新井 明（大学生協事業連合 常勤監事） 佐藤 智之（全国大学生生活協同組合連合会会員支援部 職員） 佐藤 宗治（鹿児島大学 名誉教授）

■会誌

（5月、8月、11月、2月発行）



■割り箸ポスター



■活動計算書

（2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで）

（単位：円）

科目	金額
経常収益	
受取会費	8,440,610
受取寄付金	16,346,186
受取助成金等	1,330,872
事業収益	6,004,458
その他の収益	6,126
経常収益計	32,128,252
経常費用	
事業費	
人件費	10,616,729
その他経費	13,587,293
管理費	
人件費	2,514,970
その他経費	1,151,049
経常費用計	27,870,041
経常外収益	0
経常外収益計	0
経常外費用	0
経常外費用計	0
当期正味財産増減額	4,258,211
前期繰越正味財産額	59,357,308
次期繰越正味財産	63,615,519

JUON NETWORKへの支援

JUON NETWORK がより充実した活動を展開するために、一層の活動資金を必要としています。
今後も、JUON NETWORK への物心両面のご支援をお願いいたします。

団体会員の皆さま (2024年3月31日現在 / 順不同)

一般企業 (13)

(株) 光陽メディア
(株) コープリビングサービス
(株) ダンクソフト
(株) フォレストノーツ
(株) 山城もくもく
(株) ラボランド
共栄火災海上保険 (株)
ジボダンジャパン (株)
新日本管財 (株)
太陽生命保険 (株)
グッドウィル・サークル友の会
ヤマキ醸造 (株)
(有) 樹庵
(有) D-Factory

社会福祉法人など (6)

(社福) 池田博愛会セルフ福祉
セルフ福祉保護者会
(社福) 池田博愛会福祉山荘
(社福) 江南愛の家
(社福) 山の子会 山の子の家
(社福) ワークサポートやまなみ

NPO 法人など (7)

NPO 法人 あたご共同作業所
NPO 法人 グリーンツーリズムとやま
NPO 法人 トチギ環境未来基地

NPO 法人 日本の竹ファンクラブ
(一社) 西土佐環境・文化センター
四万十楽舎
おくたま海沢ふれあい農園
沢登農園

行政・組合など (7)

三好市役所
南伊勢町水産農林課
吉野川 (三好) 流域林業活性化センター
全国森林組合連合会
三好西部森林組合
NEC グループ労働組合連合会
農事組合法人 船橋農産物供給センター

地域生協など (5)

コープみらい
とくしま生協
東京都生活協同組合連合会
日本コープ共済生活協同組合連合会
日本生活協同組合連合会

大学生協 (55)

岩手大学生協
山形大学生協
東北大学生協
東北学院大学生協
宮城教育大学生協

尚綱学院大学生協
福島大学生協
麻布大学生協
桜美林学園生協
慶應義塾生協
芝浦工業大学生協
電気通信大学生協
東京学芸大学生協
東京工芸大学生協
東京農工大学生協
一橋大学生協
明治薬科大学生協
和光学園生協
早稲田大学生協
大東文化学園生協
埼玉大学生協
横浜市立大学生協
横浜国立大学生協
茨城大学生協
宇都宮大学生協
群馬大学生協
高崎経済大学生協
新潟大学生協
東京インターカレッジコープ
名古屋大学生協
愛知大学生協
金沢大学生協
富山大学生協

富山県立大学生協
京都大学生協
大阪大学生協
近畿大学生協
神戸大学生協
関西学院大学生協
甲南大学生協
神戸市外国語大学生協
兵庫県立大学生協
岡山大学生協
鳥取大学生協
広島大学生協
愛媛大学生協
松山大学生協
徳島大学生協
大学生協 中国・四国事業連合
北九州市立大学生協
長崎大学生協
長崎県立大学佐世保校生協
宮崎大学生協
大学生協事業連合
全国大学生生活協同組合連合会

ご支援いただき
ありがとうございます!

みなさんの会費や寄付が、JUON NETWORKの活動を支えています

JUON NETWORK の活動は、みなさんからの会費や寄付で支えられています。趣旨や活動に賛同し、ご支援いただける方のご入会やご寄付を募集しています。なお、JUON NETWORK は認定 NPO 法人であり、2,000 円を超える寄付は、寄付金控除の対象となります。

会費 (年会費)		
個人会員	一般	4,000 円
	学生	2,000 円
	家族	2,000 円
団体会員	一口	30,000 円

りそな銀行 新都心営業部 普通 3699047
名義：特定非営利活動法人 樹恩ネットワーク
ゆうちょ銀行 〇一九 当座 0026902
口座名：JUON NETWORK
郵便振替 口座番号：00110-9-26902
口座名：JUON NETWORK

【クレジット決済】

国際ブランド (VISA、MASTER) のいずれかのロゴがついていれば、ご利用可能です。



認定NPO法人 JUON NETWORK

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協杉並会館内

TEL : 03-5307-1102 / FAX : 03-5307-1091

E-mail : juon-office@univcoop.or.jp / URL : https://juon.or.jp